

— 〈振り返り〉 —

K先生；S男君、やってみてどうだったかな？

S 男；立ち上がりながら言ったときは、本当にやめてほしいという気持ち、強く出せたと思います。

R 子；ほんと、立ち上がりながら言うと嫌がってるのがわかりました。

F 男；だけどさ、観察していて、表情がないと本当にいやがっているのか、ふざけて言っているのか、わからないという感じがした。

K先生；そうだね。自分の気持ちを相手に伝えようとするとき、動作とともに表情や声の大きさも大事だよ。

以上のようなアサーション・トレーニングを何度か実施することによって、K先生の学級では、以前より自分の考えや気持ちを素直に伝え

合い、受け止め合うようなコミュニケーションが見られるようになりました。

何日か経ったある日のことです。K先生は、校庭に、S男の姿を見つけました。

S 男；（迷いながら）ぼくもまぜてよ。

F 男；みんな、どうする？

みんな；いいよ。

：

S 男；（顔がぱっと明るくなる）



豊かな人間関係づくりとアサーション・トレーニング

- 「アサーション」は単なる自己表現の技術ではなく、基本的人権やものの見方、考え方を含む、広い意味での〈自己表現〉を意味します。その意味で、**自分を認め、相手も認めるという姿勢が、とても大切です。**
- 「アサーション」とは「自分も相手も大切にしながら、自分の欲求、考え、気持ちを率直に素直に相手に伝える自己表現」です。自分の権利や個性を主張し、相手の権利も侵さないという相互尊重のコミュニケーションのことですから、当然、葛藤や軌轢あつれきは起こってきます。その場合、**お互いを大切にして歩み寄る姿勢をとり、話し合いによって解決の方法を探ろうとすることが重要です。**
- 「アサーションを実施する際に注意すること」は、学級の子供たちの実態に即し、**計画的・継続的に行うこと**です。その際、一方的な押しつけではなく子供たちの**自発性を尊重すること**、また、**必ず全員で振り返りを行い、十分にフィードバックすることが大切です。**さらに、全体的な指導援助とともに、必要に応じて**個別的な指導援助も、豊かな人間関係を築いていく上で必要**です。